

各教科等における 「令和6年度の重点」

「自ら考え、判断し、表現できる子供」を目指して

学習指導要領では、子供たちに知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」を育むため、育成を目指す資質・能力の三つの柱として「知識及び技能」の習得と「思考力、判断力、表現力等」の育成、「学びに向かう力、人間性等」の涵養が示されています。

これらの資質・能力を育成するため、子供たちが学びの過程の中で、他者との協働を通じて自己の考えを広げ、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、自ら課題を見いだして解決策を考えたりするなど、1人1台端末を活用し、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善することにより、学校教育における質の高い学びを実現します。

徳島県教育委員会では、「確かな学力」において目指す子供像を「自ら考え、判断し、表現できる子供」とし、「豊かな心」「健やかな体」の育成との調和を図りながら、目指す子供の姿を実現します。

また、多様で複雑な現代の社会を生きていく子供たちには、様々な形式で伝えられる情報を読み取る力や、自分の考えを形成するために必要な情報を取捨選択し、選び取った情報を解釈したり活用したりする力が必要となります。このような力を「徳島版読解力」と定義し、すべての教科等においてその育成を図ります。

「徳島版読解力」を構成する「5つの力」

1 正確に読む力

多様なメディアが発信する文章などから、読み違い、読み飛ばし、思い込み等をせずに情報を読み取る力

2 必要な情報を取り出す力

読み取った情報から、目的や意図に応じて、必要な情報を選び出す力

3 比較・関連付けて理解する力

取り出した情報を比較したり、相互の関係性を見出したりしながら、共感的、批判的な視点で情報の価値を捉える力

4 見直す力

取り出した情報が、問題を解決するために適切かどうかを点検する力

5 発信する力

取り出した情報を基に、目的や意図に応じて自分の考えを明確にし、表現方法を選んで発信したり交流したりする力



中学校の各教科等の重点

国語

目指す子供の姿

- 社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付け、適切に使うことができる。
- 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」に関する活動において、目的や意図に応じて、必要な情報を選び、他者と伝え合うことを通して、自分の思いや考えを明確にしたり、深めたりして、表現することができる。
- 課題解決に向けて活動に粘り強く取り組むなかで、言葉を通じて人と関わり、言葉がもつよさを認識しようとしたり、言葉をよりよく使おうとしたりしている。

目指す子供を育成するための教師が取り組む具体的な実践内容

- ①**育成を目指す資質・能力を明確にし、実施状況を評価して改善を図りながら、生徒一人一人に最適な学びを重ねていく場の設定**
 - ◇振り返りやアンケート、学力調査等を活用して生徒一人一人のつまづきを捉え、螺旋的・反復的に繰り返しながら、資質・能力の定着を図る。
 - ◇教科等横断的な学習の充実を図るとともに、他教科等の取組の成果を国語科の取組に生かす。
- ②**「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」を関連させ、言語活動を通して資質・能力を育成する単元の構想と展開**
 - ◇目標と言語活動の設定の工夫、学習の手引きや多様なモデルの提示等を通し、他者と協働して、生徒が言葉による見方・考え方を働かせながら、主体的に学習を進める過程を設定する。
 - ◇語彙の量と質の充実を図るために、読書活動の推進や実生活に関連した言語活動を取り入れるなどして、語句を蓄積することや蓄積した語句を意図的に使わせることに、継続的に取り組む。
 - ◇情報を取り出して整理し、その関係を捉えることで、話や文章を正確に理解したり、自分のもつ情報を整理して、その関係を分かりやすく明確にすることで、適切に表現したりする学習活動を設定する。
 - ◇前学年や小学校での既習事項を活用する場面を設定する。
- ③**身に付けた資質・能力や学習内容をICT活用等により自覚化を図る指導の充実**
 - ◇多様な学習の記録（ノート、成果物、映像等電子データ）が生まれるように工夫をする。
 - ◇「書くこと」を通して振り返りをさせるとともに、ICTの利用等により共有して学びを深めさせる。

目指す子供の姿

- 我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解しているとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめている。
- 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりしている。
- 社会的事象について、国家及び社会の担い手として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとしている。

目指す子供を育成するための教師が取り組む具体的な実践内容

- ①**「単元を貫く問い」を設定し、知識を活用したり、技能を習熟させたりする活動を充実**
 - ◇単元を通して身に付けさせたい知識を明確にして、身に付けた知識を活用する場面を設定する。
 - ◇地図や統計等、各種の資料をICTを活用して、収集し、読み取り、まとめる学習場面を設定する。
- ②**生徒が自分の考えを広げ深める対話的な学習活動の充実**
 - ◇自分の考えをもつ場面を設定し、思考を可視化する手立てを工夫する。
 - ◇資料等を活用して論理的に説明したり、立場や根拠を明確にして議論したりする場面を設定する。
- ③**生徒が主体的に課題解決しようとする学習活動の充実**
 - ◇生徒と社会的事象との関わりを意識させる課題を設定する。
 - ◇課題に対するまとめや学びの振り返りの場面を設定する。

社会

目指す子供の姿

- 数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることができる。
- 数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見だし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現することができる。
- 数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとしたり、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしたりすることができる。

目指す子供を育成するための教師が取り組む具体的な実践内容

①数学的な見方・考え方を働かせる学習活動の充実

- ◇新たな課題に対し、既習の知識及び技能との関連を示しながら、目的に応じて数、式、表、グラフ等を活用して、解決の見通しや構想をもたせる場面を設定する。
- ◇振り返りの時間に、既習の知識及び技能を用いた有効な解決方法等をまとめさせることで、既習の学習内容を次の問題解決へのアイデアとして生かせるようにする。

②数学的に考える資質・能力を育成する学習活動の充実

- ◇生徒が自ら課題を把握したり、解決したりする時間を確保し、教師主導の知識伝達型授業に偏らないようにする。その際、発問を工夫し、既習事項との関係を基に、自分の考えを数、式、表、グラフ等を使って表現したり、他者に筋道立てて説明したりする場面を単元等の中で計画的に設定する。
- ◇ICTを有効に活用する（多様な解法を共有し自分の考えを深める・観察や操作、実験などを通して問題を見いだす・問題を解決するために必要なデータを収集する・図、表、グラフなどを作成して処理する等）ことで、数学的に考えたり、表現したりする時間を十分に確保する。
- ◇「とくしま授業技術の基礎・基本」の「板書について」「ノート指導について」を参考にし、思考や振り返りなどに板書やノートを活用する場面を設定する。

③数学的活動の充実を図り、学ぶことの楽しさや数学のよさを実感させる学習活動の充実

- ◇日常生活や社会の問題の中にある数学的な事象を題材とし、既習の知識及び技能と関連付けて解決する場面を設定する。必要に応じて、週末や長期休業中の課題として取り組むようにする。

目指す子供の姿

- 自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けることができる。
- 自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究することができる。
- 自然の事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとするすることができる。

目指す子供を育成するための教師が取り組む具体的な実践内容

①自然事象についての知識を深めたり、観察・実験の技能を身に付けたりする学習活動の充実

- ◇自然現象についての知識を深め、理解したことを適切な用語で説明する学習場面を多く設定する。
- ◇観察・実験の目的を理解し、その過程や器具等の適切な操作や結果の記録により、課題解決につながる活動を充実させる。

②身近な事物・現象の中に問題を見だし、「探究の過程」をたどらせる学習活動の充実

- ◇身近な事物・現象の中に問題を見だし、各自が根拠のある予想や仮説を立て観察・実験を行い、得られた結果を考察するなどの活動を行う場面を設定する。
- ◇各自の考えを表やグラフ、モデル、ICT等を活用して科学的な筋道を立てて説明し、その妥当性を検討する場面を設定する。

③自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする学習活動の充実

- ◇自然体験の大切さや日常生活や社会における科学の有用性を実感できるような場面を設定する。
- ◇課題に対するまとめや試行錯誤した学習の状況を振り返る場面を設定する。

目指す子供の姿

- 音楽活動を通して、曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について、理解できるとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするための技能を身に付けて、演奏したり音楽をつくったりできる。
- 音楽的な見方・考え方を働かせ、音楽表現を創意工夫し、よりよい音楽表現を生み出したり、曲や演奏のよさや美しさを見いだしながら、音楽を味わって聴いたりできる。
- 音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に、表現及び鑑賞の学習活動に取り組むことができる。

目指す子供を育成するための教師が取り組む具体的な実践内容

①音楽活動の中で、実感を伴いながら知識を習得したり更新したりする学習活動の充実

◇生徒が音楽から感じ取ったイメージや感情と、音楽の構造や背景などとの関わりを捉え、知識として習得したことを、表現や鑑賞の活動に生かすことができるような学習活動を設定する。

②技能と「思考力、判断力、表現力等」の育成とを関わらせた学習活動の充実

◇創意工夫の過程で、様々な音楽表現を試しながら、思いや意図を明確にしつつ、技能が習得されるような学習活動を設定する。

③生徒の思いや意図を音楽表現に生かしたり、音楽のよさや面白さを見だし、曲全体を聴き深めたりすることができるような学習活動の充実

◇音楽を形づくっている要素を音楽の特徴を捉える窓口として、知覚と感受との関わりについて考える学習場面を設定する。

◇演奏して試す、何度も聴く、話し合いなどによって、音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図り、それによって気付いたり、表現や鑑賞の活動を深めたりしていけるような指導を工夫する。

④ICTの効果的な活用による表現及び鑑賞の活動の充実

◇生徒が様々な感覚を関連付けて音楽への理解を深めたり、主体的に学習に取り組んだりすることができるように、指導のねらいの明確化や活用場面の精選を図ることにより、効果的にICTを活用する。

目指す子供の姿

- 対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができる。
- 造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し、豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができる。
- 美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に表現及び鑑賞の幅広い学習活動に取り組もうとすることができる。

目指す子供を育成するための教師が取り組む具体的な実践内容

①造形的な視点について理解するとともに、表現方法を創意工夫し、創造的に表す学習活動の充実

◇形や色彩、材料や光などの造形の要素に着目してそれらの働きを捉える学習活動を設定する。

◇全体に着目して造形的な特徴などからイメージや作風などを捉える学習活動を設定する。

◇発想や構想したことを基に創造的に表す技能の習得を図る学習活動を設定する。

◇自分の表現意図に合う表現形式や技法、材料などを選択する学習場面を設定する。

◇試行錯誤しながら創意工夫する学習場面を設定する。

②主題を生み出し豊かに発想し構想を練る学習活動の充実

◇主題を生み出し、自己の夢や目標を表現することで自己実現を体現する学習活動を設定する。

◇「A表現」と「B鑑賞」の相互の関連を図る学習場面を設定する。

③美術や美術文化に対する見方や感じ方を深める学習活動の充実

◇美術作品や、生活や社会の中の美術の働きや美術文化について、自分の価値意識をもって批評し合う言語活動の場面を設定する。

◇地域的美術館等との連携を検討し、鑑賞活動の充実を図る。

④ICTの効果的な活用による表現及び鑑賞の活動の充実

◇表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を育むことを目指す授業改善の手段として、ICTを効果的に活用する。

目指す子供の姿

- 各種の運動の特性に応じた技能等及び個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けることができる。
- 運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えることができる。
- 生涯を通じて心身の健康の保持増進を目指し、明るく豊かな生活を営むことができる。

目指す子供を育成するための教師が取り組む具体的な実践内容

- ①**運動技能等を身に付けたり、健康・安全についての知識を深めたりする学習活動の充実**
 - ◇各種の運動の特性に応じた技能を習得できる学習場面を多く設定する。
 - ◇身に付けた知識や技能を活用して、運動や健康・安全について説明する学習場面を設定する。
- ②**合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える学習活動の充実**
 - ◇運動や健康・安全について思考し判断するとともに、それらを仲間や教師と伝え合う学習場面を多く設定する。
 - ◇体を動かす機会を適切に確保した上で、試行錯誤を重ねながら思考を深め、課題を比較、分類、整理したり、解決に向けた課題を焦点化したりするためにICTを活用する。
- ③**健康の保持増進、明るく豊かな生活の実現に向けて主体的に取り組む学習活動の充実**
 - ◇自他の課題解決に向けた見通しが得られるような問いかけや、情報提供を充実する。
 - ◇課題の解決に向けて、自ら粘り強く考察することができる支援を充実する。

目指す子供の姿

- 生活と技術について理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。
- 生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。
- よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を身に付けている。

目指す子供を育成するための教師が取り組む具体的な実践内容

- ①**実践的・体験的な活動の充実**
 - ◇実践的・体験的な活動を中心とし、生徒が学習の中で習得した知識及び技能を生活の場で生かせるよう、生徒の実態を踏まえた具体的な学習活動を設定する。
- ②**問題解決的な学習の充実**
 - ◇生徒一人一人が、自ら問題を見いだして適切な課題を設定し、学習した知識及び技能を活用して、主体的・意欲的に課題解決に取り組み、解決のための方策を探るなどの学習を繰り返し行う。
 - ◇生徒が、自ら設定した課題の解決に向けて、課題の解決方法の検討や解決に向けた実践活動において、他者と協働しながら解決の見通しをもって粘り強く取り組むことができる学習過程を計画的に組み立てる。
- ③**ICTの効果的な活用**
 - ◇生徒の思考の過程や結果を可視化する、大勢の考えを瞬時に共有化する、情報を収集・整理し編集することを繰り返し行い試行錯誤するなどの学習場面において、ICTを積極的に活用する。

目指す子供の姿

- 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けている。
- コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりしている。
- 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

目指す子供を育成するための教師が取り組む具体的な実践内容

①言語活動の充実

- ◇コミュニケーションの目的・場面・状況を明確に設定し、生徒が自分の考えや気持ちなどを伝え合う言語活動の充実を図る。
- ◇「言語活動→言語材料等の指導→言語活動」といった授業展開で、学習した語彙、表現などを繰り返し活用させながら学習事項の定着を図り、表現する力を高める。
- ◇言語材料等についての理解を深める練習は、言語活動を成立させるためには必要であるが、練習だけで終わることのないように留意する。
- ◇教科書等の学習内容と言語活動とを関連付けられるよう工夫する。
- ◇視聴覚教材やコンピュータ、情報通信ネットワーク、教育機器などを有効活用し、生徒の興味・関心をより高め、言語活動の更なる充実を図るようにする。

②4技能5領域（聞くこと、読むこと、話すこと [やり取り]、話すこと [発表]、書くこと）を関連付ける指導

- ◇領域間の統合的な授業展開（例えば、読んだものについて、感想や自分の考えなどを話したり書いたりするなど）になるよう工夫し、年間を通じて4技能をバランスよく育成する。
- ◇生徒が「できること」を実感できるように評価方法を工夫するとともに、小中高の連携を意識したCAN-DO型学習到達目標を設定し、生徒と目標を共有することを通して、指導と評価の一体化を図る。

目指す子供の姿

- 道徳的価値が大切であることを理解し、様々な状況下において人間としてどのように対処することが望まれるかを理解している。
- 人間としてよりよい生き方を志向している。
- 道徳的判断力や道徳的心情を基盤とし道徳的価値を実現しようとしている。

目指す子供を育成するための教師が取り組む具体的な実践内容

①学習指導過程の工夫

- ◇道徳科の特質を生かし、道徳的価値の理解を基に自己を見つめ、人間としての生き方について考えを深められるよう適切に構成する。
- ◇ねらいに即した適切な指導の手立てになるようにする。

②発問等の工夫

- ◇生徒が広い視野から多面的・多角的に考えることができる問い、道徳的価値を自分のこととして捉えることができる問いなど、指導の意図に基づいて的確に行う。
- ◇生徒の発言を傾聴して受け止め、発問に対する生徒の発言などの反応を、適切に指導に生かす。

③指導方法の工夫

- ◇「考え、議論する道徳」、「主体的・対話的で深い学び」が行われるように、ICTを活用する。
- ◇自分自身との関わりで、物事を広い視野から多面的・多角的に考えさせるために、教材や教具を活用する。
- ◇生徒の実態や発達段階にふさわしい指導方法の工夫をする。

目指す子供の姿

- 課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、様々な場面において探究的な学習を進めることができる。
- 実社会や実生活の中から課題を設定し、課題解決のために情報を集め、整理・分析し、まとめたり表現したりすることができる。
- 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、自他のよさを尊重しながら、積極的に社会に参画しようとするすることができる。

目指す子供を育成するための教師が取り組む具体的な実践内容

①学習過程を探究的にすること

- ◇「課題の設定」では、実社会や実生活に関わる体験をすることで、自ら課題意識をもち、その意識が連続発展することができるよう、教師が意図的な働きかけを行う。
- ◇「情報の収集」では、課題解決のための情報収集を自覚的に行うとともに、体験で獲得した情報をレポートなど適切な方法で蓄積することにも配慮する。
- ◇「整理・分析」では、目的に応じて、比較して考える、分類して考える、序列化して考える、類推して考える、関連付けて考える、原因や結果に着目して考える、などの「考えるための技法」を用いて思考を可視化できるようにする。
- ◇「まとめ・表現」では、相手意識や目的意識を明確にしてまとめたり、表現したりすることで、情報を再構成し、自分自身の考えや新たな課題を自覚し、探究の過程が繰り返されるようにする。

②他者と協働して主体的に取り組む学習活動にすること

- ◇体験活動を探究活動の過程に意図的に位置付けるとともに、ICTや思考ツールなどを効果的に活用しながら、互いに教え合い学び合う活動や地域の人との意見交換や交流活動など、他者と協働して課題を解決し、自分の考えを深めようとする学習活動を重視する。

目指す子供の姿

- 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や、活動を行う上で必要となることについて理解している。
- 自己の生活の充実・向上や自己実現に必要な情報及び方法を理解している。
- よりよい生活を構築するための話し合い活動の進め方、合意形成の図り方などの技能を身に付けている。
- 所属する様々な集団や自己の生活の充実・向上のため、問題を発見し、解決方法を話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりして実践している。
- 生活や社会、人間関係をよりよく構築するために、自主的に自己の役割や責任を果たし、多様な他者と協働して実践しようとしている。
- 主体的に人間としての生き方について考えを深め、自己実現を図ろうとしている。

目指す子供を育成するための教師が取り組む具体的な実践内容

①「合意形成を図る」「意思決定を行う」活動の充実

- ◇議題や題材を選定・設定し、根拠を明確にして自分の考えを話したり、意図を捉えながら聞いたりして、「折り合いを付けながら集団として合意形成を図る」「集団思考を生かした一人一人の意思決定を行う」話し合い活動ができるように指導・支援を工夫する。

②「多様な考え」「自分の考え」をよりよい方向へまとめていく活動の充実

- ◇実践や体験を通して感じたり、気付いたりしたことを振り返り、言葉でまとめたり、発表し合ったりする活動を重視するとともに、次の活動に生かすことができるように支援する。
- ◇ICTを活用する場面を適切に選択し、教師の丁寧な指導の下で効果的に活用する。

③合意形成したり、意思決定したりしたことを実践する活動の充実

- ◇合意形成したことを基に、役割を分担し全員で協力したり、意思決定したことを基に、個人として努力したりして、目標の実現や達成を目指すよう支援する。
- ◇生徒が実践や体験を通し、集団の一員としての望ましい生き方についての認識をもつことができるよう、道徳科との関連を図った指導をする。